

学校目標・経営方針	小中高一貫教育の利点及びスケールメリットを生かした、たくましく力とゆたかな心をもった児童生徒の育成		
本年度の重点目標	1 特別支援教育の推進	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 3学部を通じた系統性・一貫性のある教育活動の展開	達成度 B	概ね達成できた。(6割以上)
	3 安心・安全な学習環境の確保	C	不十分である。(4割以上)
	4 個に応じた指導の充実	D	達成できなかった。(4割以下)
	5 保護者・地域・関係機関との連携		

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
1	できていない。	

自己評価			
本年度の重点目標		年度末評価(1月17日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	特別支援教育の推進	研修会及び外部専門家を活用し教職員の専門性を向上させる。 地域のニーズに対応したセンター的機能を発揮する。	・研修会開催回数及び外部専門家の活用状況 ・児童生徒の姿容 ・実施状況 ・定期的な情報発信の状況
2	3学部を通じた系統性・一貫性のある教育活動の展開	指導内容を検証・改善し、学部間における共通理解を図る。 他学部の授業参観や授業研究会への積極的な参加を推進する。	・校内研究の実施状況 ・アンケートの実施 ・参観及び参加状況 ・アンケートの実施
3	安心・安全な学習環境の確保	防火・防災に向けた危機管理体制を確立する。 日常点検及び定期点検により、施設・設備の危険箇所を早期に見出し早期に改善する。 校舎改築事業に係る業者等との定例会を月2回開催し、安全管理体制を確立する。	・訓練後のアンケート実施 ・マニュアルの整備状況 ・対応状況 ・定例会の開催状況 ・安全対策の状況
4	個に応じた指導の充実	「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、適切な指導及び必要な支援を提供する。 「キャリア教育発達段階アセスメントシート」を実施し、客観的な実態把握を行う。 観点別評価を導入し、指導と評価の一体化を図る。	・活用状況及び提供状況 ・アンケート実施 ・アセスメントシート実施状況 ・観点別評価の実施状況
5	保護者・地域・関係機関との連携(豊かな学校生活の実現)	連絡帳、学級・学年通信、懇談会等を通じて保護者との共通理解を図り、連携を強化する。 学校間交流をはじめとした交流及び共同学習を推進する。 関係機関等との関係者会議を充実させ、適切な進路選択に結びつける。 校外学習や部活動等、豊かな体験の場を提供する。	・各種通信の発行状況 ・懇談会実施状況 ・アンケートの実施 ・実施回数及びその内容 ・年度末の進路実績 ・実施回数及びその内容

学校関係者評価		
実施日 (平成30年2月15日)		
評価	意見・要望等	
4	・外部専門家の活用が効果を上げていて、引き続き活用していただきたい。センター的機能についても今後更に必要性が高まるようなので、充実させてもらいたい。 ・センター的機能を果たせようということが法的にも規定されて、そのことが特別支援学校の大きな任務・使命になり、もう10余年経過してと思うが、地域の小中学校・高校はそれぞれ地域性とか学校の児童生徒の特性があり、その中でいろいろな問題が起きているはずである。そういった学校独自の問題を特別支援学校に依頼すれば何か解決できるのではという流れをこの10余年の間、広げてしまっただけで、連携は大切だが今後のセンター的機能の在り方を見直し、必要があると感じた。それぞれの学校がやるべきことを大事にしてほしいような支援方法や連携方法が必要だと思う。わかばをはじめとした特別支援学校が「精査」が必要であるとされている(小中学校等が依存してきている、自分の学校のことを解決できない状況が広がっている)ことを改めて感じた。	
3	・学校として一つのものであるということ、どういう学校を作っていくかという点では、系統性・一貫性はすごく聞かれると思う。しかし、学部の中に入って目の前の子供たちを見ていると、発達段階・生活年齢が全く違うので、一担任としては目の前の子供をどうしようかという点にエネルギーを使う。そのことがよい結果として表れている。系統性という大きな流れを見ていくのは、学校経営を行う管理職や運営委員のレベルだと思う。わかばの場合は12年間を見ていかななくてはならない、また途中入ってくる子供たちも多し。それぞれの学部で抱えている課題が違う状況でありながら、わかばが教育というものを作っているということに難しさがあると思う。そのことに気づかされて、目の前の子供だけでなく他学部の子供たちも見てみようということ、他学部の授業参観や研究会に参加し合う取組が行われたのだと思う。発達段階の違う子供を見ることが今見ている子供のことが見えてくることもあるので、そいった工夫をされているのだと感じた。難しい課題だと思うが、学校経営という観点からぜひ引き続き取り組んでほしい。文字面だけの系統性・一貫性ではなく、子供たちの育ちの中から見ていくということも必要だと思う。	
3	・改築工事が無事終了し、立派な校舎が完成して喜ばしい。安心・安全な学習環境を確保するために十分配慮してもらっていることも、とてもありがたう感じている。 ・引き渡し訓練について。様々な災害や場面設定で訓練が必要だと思います。例えば、大雪でスクールバスが途中で動けなくなるなど想定してみてはどうか。 ・引き渡し訓練について。学校が避難所になっているのに、引き渡してしまうことで逆に危険になってしまうこともあるのではないか。本校は耐震化も済んでいると思われるので、引き渡すことは是非も含めて、再度保護者と話し合う必要があるのではないか。	
3	・「個別的教育支援計画」の校外での活用を更に進めてもらいたい。 ・「キャリア教育発達段階アセスメントシート」の取組について。とてもよい取組なので、活用事例があると更によい取組になると感じた。 ・「キャリア教育発達段階アセスメントシート」の取組について。気になるのは、これが多忙化になってはいかない。系統性を見ていくためにはこうしたものが必要であらう。ただ、こういったチェックリストは「できる評価」になってしまうので、できるようにすることはよいのだが、できるところまでは到達してないけれども努力している子供たちがたくさんいるのがわかばである。「できる評価」がたくさんあることをどのようにしていくかをフォローしていく必要があるだろう。	
4	・よく取り組んでいる。 ・交流及び共同学習はとても大切だと感じている。在学中にできるだけ多くの人々と接する経験をさせておきたい。大勢が苦手な子供にも慣れていたことが勉強として必要。本校と分校の合同学習会とてもよい取組であるので、継続していただきたい。 ・都留文科大生の聴講生の4年生が白根源小学校の卒業生で、白根御動使中学校時代も含めて7年間わかば支援学校と交流していた。このときの交流がきっかけで特別支援教育に興味を持ったとのこと。積み重ねの大切さを改めて感じた。 ・地域交流など引き続き継続して実施すべきだと思う。 ・地域のオ祭り・高等部太鼓部に参加してもらっており、とても好評である。今後お願いしたい。	

※ 1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

